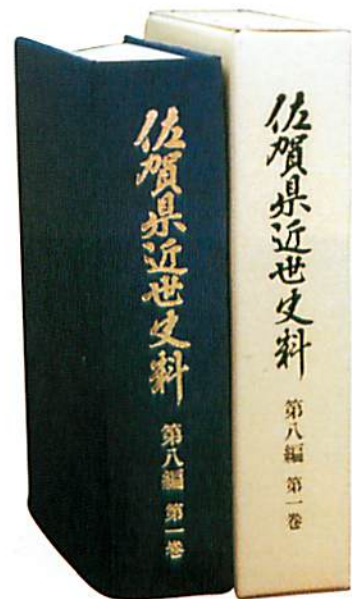


佐賀のことわざ

(佐賀県近世史料—第8編第1巻—から)

佐賀県立図書館では、近世史に関する重要な史料を活字化し刊行する佐賀県近世資料編さん事業を行っています。全体10編（1佐賀本藩 2三支藩 3唐津藩 4対馬藩 5対外交渉 6地方・町方 7産業 8思想・文化 9文学 10宗教）計40巻からなる編さん物です。今春は第8編（思想・文化編）第1巻を刊行しました。この中の記録には、佐賀のことわざ・俚諺・教訓といったものがたくさんありますので、一部を紹介します。



- ① 人は一言で、敵となり味方となるものなり。
- ② 金銀は借りてもあるもの、人はにわかになきもの。
- ③ 七息思案（決断はすばやくがよし）
- ④ 慈悲は運の母
- ⑤ 自慢すれば大功も無になる
- ⑥ 前非を改めて深く悔ゆべからず、悔い深ければ氣草臥れあり
- ⑦ 石卵卵石（投げられた卵も割れないように受けるやりかたあり）
- ⑧ 人の善悪十年づつに替わるといふことあり（以上『老土物語之ケ条覚書』より）
- ⑨ 堪忍は成就の元
- ⑩ 天の照覧は鏡のごとし（以上『草庵雑談覚書』より）
- ⑪ 焼き鳥にへい緒（焼き鳥は死んでいるが、飛んで行かないように用心してヒモをつける）
- ⑫ 志は松の葉につつめ（以上『葉隠聞書校補』二より）

もう伝わらなくなってしまった言葉もありますが、全体からみれば、今日にも通用する先人の智慧があるようです。⑦の「石卵卵石」はわかりにくい言葉ですが、物事の取り合い方、心持ちのことを言っているようです。⑩の「天の照覧」は「おてんとう様はお見通し」という意味で自分を省みる言葉でした。⑫の「松の葉」は松の葉に隠れるくらいほんの気持ちばかりという心で差上げなさいという意味と思われ、「松の葉」の用語で、今でも「寸志」などと同様ちょっとした御礼のときなどに使われます。

第8編（思想・文化編）第1巻の頒布価は11,000円（送料込み）です。近世資料編さん室
(TEL0952-24-2900 FAX0952-25-7049 〒840-0041 佐賀市城内2丁目1-41)
までお申し込みください。